

編集後記

今年オリンピックの年。北京大会の前後、さまざまな観点から中国という国家をめぐる諸問題が取りざたされた。とくに、開催前の民族問題については国際的な耳目を集めた。この問題に関わる人々も、その現状を世界に向かってアピールするにはオリンピックが絶好の機会であるにとらえているのではないかと思われる。それもこれも、オリンピックがグローバルなメディア・イベントとしての位置を確固たるものとしていることの反映であるともいえる。同時に、ローカルな場におけるスポーツのあり様についてグローバル化との相互作用を感じさせる場面も多々あった。

今年度の年報のテーマタイトルを「グローバル化とローカル化の交点」とした。昨年度にも記したが、スポーツにおけるグローバル化とローカル化の双方を構造的にとらえ、相互のプロセスにおける「規定し、規定し返す」というダイナミックな側面を探求することをねらいとしている。各報告は、それぞれの国、地域、および対象に、スポーツのグローバル化という視点を陰に陽に含み込みながら切り込んでいる。

昨年度に続いて、月例研究会で大学院生の発表を1、2回程度組み込むという研究部方針に基づいて大学院生の報告が2回行われた。そのうち、執筆希望のあった金子氏の論文を掲載した。

今回のゲスト研究会は、本学社会学研究科の多田治先生に報告をお願いした。氏の研究フィールドである沖縄に関するこれまでの研究の総括的な報告を受け、われわれのスポーツ研究との架橋の可能性を感じることができた。ただし、機器の不具合により当日の研究会の録音ができなかったため、討論部分の採録は割愛せざるを得なかった。同時に、多田先生には原稿を新たに書き下ろしていただくことになった。ご多忙の中、執筆を引き受けていただいた多田先生にはあらためて感謝申し上げたい。

例年と同様に関根助手と渡辺助手の編集実務をはじめとする有形無形のサポートによって、ここに今年度の研究年報の完成を見た。記して謝意を表したい。

本年報は、文部科学省科学研究費「スポーツのグローバル化とコミュニティにおけるスポーツの変容に関する研究」(研究代表者：尾崎正峰、課題番号：20500538)の研究成果の一部である。

(研究部長・尾崎 正峰)

一橋大学 スポーツ研究

Vol.27

スポーツのグローバル化とローカル化の交点

2008年10月1日 発行

編集・発行 一橋大学スポーツ科学研究室
〒186-8601 東京都国立市中2-1
042-580-8270

www.rdche.hit-u.ac.jp/~sports/
